

# おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー部報第 4 号 (5 月 9 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Y1 第3・4節 1勝1敗!

4 月 29 日 (土) Y1 第 3 節羽黒高校戦が山形市球技場で開催されました。部報前号で書きましたように、ここまで羽黒 2 連勝。会場が異なっていたので試合内容は分かりませんが、昨年の県新人のイメージからすると、それも当然と感じられる。今年の優勝候補の一つとの対戦でしょう。羽黒は以前は外国人選手もおり、多国籍なチームでしたが、今は「国産専門」。ただ、チームの主軸には地元選手が少なく、やはり県のレベルの低さを感じてしまう。要は、**全国に通じる良いチーム作りをしようと思えば、県内選手が少なくならざるを得ない**というのが現実なのでしょう。もちろんこのコメントは、地元を優遇しない羽黒への皮肉ではなく、こうならざるを得ない山形の現実を憂いてのこと。羽黒のスタッフと話をすると、モンテ庄内 Jr.Youth の選手がごっそり羽黒に行っていた時代も「今は昔」の様子。あの頃 (6 年前くらい) の羽黒は戦力が本当に充実していて、**インターハイでもベスト 8 まで行った**こともあった。**羽黒の快進撃は「山形のチームでもあそこまで行けるんだ」と本当に勇気もらった**ものだった。結局、山形の代表チームが全国大会で勝ったのは「あれっきり」で、あとは IH も選手権もすべて初戦敗退が続いている。ともかく、**選手の奔放なスキルとアイディアを組み合わせつつ勝負に徹するスタッフのチーム作りには、見習うべき点が多い**。

さて、会場は 3 節連続で山形市球技場。恵まれている。風は細かくは忘れましたが、あまり吹いていなかったはず。**清野総監督** (山東サッカー部後援会<sup>1</sup>名誉会長)・**工藤先輩**・**後藤報道局長**といういつもの御三方がいつも通りお越しになっている。またこの試合、県サッカー協会の専務理事もなさっている**岸後援会会長**もお越しになった。山形大学 1 年の**ユータロー**と東北大学 1 年の**タクオ** (ともに山東 67 回卒<sup>2</sup>) も来てくれた。加えて、実は第 1 節も観戦してくれたが、この試合から新たにコーチを引き受けて下さった**高橋コーキ**<sup>3</sup>もベンチ入り。もちろん多くの保護者の方も応援にいらしている<sup>4</sup>。前節の日大山形戦の引き分けがまぐれではないことを、自他共に向けて証明することができるか。

試合が始まると、入りは一進一退。日大のように押されまくる入りではないにしても、やはり羽黒のアタッカー陣、山東の選手がワンサイドを切ってくる (進行方向を限定してくる) のをかいくぐり、薄いところを突いてくる。何度かボールがゴール前を横切り、ヒヤッ

<sup>1</sup> OBOG 会のことです。

<sup>2</sup> 今年の 3 月に卒業した学年 (卒業会名東標会) です。

<sup>3</sup> 人物紹介・自己紹介は、この部報最後に掲載します。

<sup>4</sup> 山東の保護者の方は時間に正確と申しませうか。試合開始 10 分前くらいに保護者席を見ると、「あれっ今日は少ないか」と思っても、試合開始のホイッスルが鳴る頃には、ちゃんと皆さん勢揃いしていますよね。

とさせられるものの、フィニッシュは打たれず。山東も前線からプレッシャーをかけ、相手のビルドアップを制限しつつ、奪ったらショートカウンターを仕掛ける戦いがうまく機能している。まず決定機を最初に作ったのは山東。**狙いのショートカウンターからベジが GK と 1 対 1 になりシュートを放つ**も、らしからぬ焦りようだったのか、シュートは GK 正面を突き、最初のビッグチャンス逃す。しかし、攻勢を強める山東は、**タカヒラがボールを確保して、ためてからのベジへの横パスを、ベジ「2度逃しはしないよ」と言わんばかりの強気のダイレクトシュート**（ワンタッチシュート）。トラップしてもフリーで打てたと思うのですが、そのタイミングでのシュートが予想外だったか、GK も動けないファインシュートが羽黒ゴールに突き刺さり、**山東先制**。その後も一進一退ではあったが、**山東の千ビツ子軍団が獐猛に羽黒ゴールを襲いかかる方の印象が強く、内容的にも山東優位の前半終了。守備陣も体を張って凌ぎ続けてくれた。**

しかし、**後半、やけに気合の入った羽黒。ホイッスル前からアドレナリン全開で声を出している**。相当精神的な意味での闘魂注入があったのでしょうか。というか、やはり近年の不甲斐ない山東の戦いを知っているだけに、**前半は本気になれずにいた**ということでしょう。そして、後半は本気で来る羽黒。対する山東は、冷静と言えれば聞こえはいいが、その後のパフォーマンスを見るに**羽黒の勢いに吞まれてしまっていたか。日大戦同様ファーストの競り合い、セカンドボールの拾い合い、いずれでも後手を踏み続け、個々の勝負で勝ってさらに意気上がり、勢いをつける相手のペースに吞まれてばかり**。そうした展開の中、繰り返し与えていたセットプレーのうちの一つの CK をファーで合わせられ、後半の前半の段階で**失点し同点**へ。このシーン、山東の選手のマークが甘いし、**GK ハレル**も「ここが見せ場だ」と言わんばかりにキャッチまたは弾きに行きたくかった。ハイボールの争いは手を使える GK が FP よりも圧倒的に有利なので、積極性がほしい。というので、同点。正直、前半から、ベンチでは齋藤 GK コーチを中心に「このまま (1-0) で行くとは思えない」とコメントし合っており、「**やはりか」と肩を落とさざるを得ない**。ただ、**後半戦いが崩れ何をやってるのかわからない攻撃を繰り返した第 1 節の米沢中央戦と比べ、山東が今一度相手ゴールに迫る戦いが後半もしっかりできており、第 1 節と比べ冷静さを感じる**。要は、本気で来た羽黒相手にも、山東の時間をしっかり作れていたということ。しかし、やはりその後も羽黒の攻撃に堪えることができず、DF と GK の間に入れられたアバウトなボールに対して CB が後手を踏んだのと、「DF が競り合っているのだからすぐ良いシュートは来ない」と落ち着いて読みペナルティエリアを出さずによかったはずの GK がフラフラ出たのと重なり、相手に一瞬先に触られたボールが GK の頭上を越え、ボールは無人のゴールに吸い込まれ、**逆転を許す**。そして結果は**痛恨の逆転負け**。

後半の羽黒の勢いをしっかり止め、さらに突き放すくらいの戦いをしたいものですが、まだまだ力不足を感じたこの試合。**ルースボールへの鋭い対応、速い切り換え（特に攻から守への切り換え）が勝利には必要だと痛感させられた試合**となりました。また、**声掛けで勢いをつけたりお互いの集中力を高めたりすることができる、ということ**を羽黒から教えてもらった試合だったとも思います。後半はピッチから聞こえてくる声のほとんどは羽黒の選手のものであり、そういう勢いをつける声掛けでも対抗する必要があったでしょう。ただ、山東の攻撃力が羽黒相手にも通用する部分があったのは事実であり、敗戦も次につながるものだったと思います。私個人としては、前日夜に妻に踏まれてメガネ中央部分が真っ二つにな

ったのですが、スペアがない状態だったのでテーピングで巻いて試合に臨む⇒ピントが合わず気持ち悪くなる⇒試合途中には外れて両手でそれぞれのレンズ部分を持って観るといふ、虫眼鏡状態（マニュアルメガネ状態）となり、監督の準備不足を痛感させられる一日でした・・・。

そして、5月3日（水）はY1第4節山形商業戦、会場は白鷹町の東陽の里（人工芝）。**ここで公式戦をすると救急車を呼ぶ事態になるのは、昨年までの話にしたい**<sup>5</sup>。東陽の里係<sup>6</sup>も、**3年ザキヤマから2年キムタク**にしっかり引き継がれている。**相手の山商は、昨年の選手権県予選の決勝に進み、山形中央に惜敗したものの選手の能力の高さを証明した**。特に、そのチームでもエースだったFWが、今年も残っている<sup>7</sup>。伝統的に山形FC出身の選手が多く、タレント揃い。ただ、学校自体がまた伝統的に女子が多く、学年によって選手数等にばらつきが出てしまうのは、きついところ。昨年はY1でも上位を占めたが、今年はここまで1勝2敗と苦しんでいる。**山東は同じ2敗同士の対決、ぜひここで勝ち点3欲しい**ところ。

会場は上記にあるように東陽の里。4節にして初めて市内を出ての対決。キックオフは15:30と遅いものの、10:30からの東北リーグ（プリンスリーグ東北）の青森山田B対山形中央戦を観戦するため、皆で早めに会場に到着。山田Bの凄さを肌で感じつつ、15:30の試合開始を待つ。

この試合、清野総監督は珍しく不在でしたが、**工藤先輩**と**後藤報道局長**は当然のようにお見えになる。もちろんたくさんの保護者の方々も白鷹町まで駆けつけて下さいましたが、この試合で特筆すべきは、大学1年目のOBOGが多数駆けつけてくれたこと。**東北大学1年のサンペー、山形大学1年のマツキとユータロー、新潟大学1年のシュン、埼玉大学1年のワカバ、そして河合塾仙台校1年のユート**の合計6名。県外に住む諸君は初めてのGWにすかさず帰省するとは、親孝行だねと、まず言うておきましょう。学生生活を満喫する先輩の応援を頂き、この試合、山東どうなるか。

試合が始まると、良い入りをしたのは山形商業。押し込まれる。山東はいつも入りが悪い。しかし、ヒヤッとする場面を作らずにいると、徐々に試合は山東に傾き出す。継続して攻めていると、**2年FWの漫才師タカヒラ**が、ペナルティエリア内でオーバーアクションに転ぶ。ベンチからは遠かったのでよくわかりませんが、確かに相手が押しているように見えた。タカヒラの演技が勝った訳ではないでしょうが、主審がホイッスルを吹く。ファールのあった箇所から山東ベンチは遠かったので判然としませんでしたが、ペナルティエリア内の端っこだったので、「PKと思ったのは、まさか見間違えの糠喜びで、ペナルティエリアギリギリのFKなんてことないよね？」と半信半疑に見つめる。すると、やはりPK。まだ決まった訳でもないのに、「ヨシッ」喜んでしまった。「キッカーは？」と見ていると、**3年MFのカイトとDFのカンタ**がじゃんけんしている。試合中にじゃんけんとは不謹慎だと思うが、それ以上にベンチで話になったのは**カンタの「メンタルの強さ**」。だって、カイトはFKもCKもキッカーだからPKも蹴りに行くのは当然にしても、何の理由があつてカ

<sup>5</sup> 昨年は2度呼んだはずです。

<sup>6</sup> 東陽の里の施錠の仕方や、鍵の返却場所を熟知する役割の山東の選手。

<sup>7</sup> 要は、昨年は2年生エースだったということ。

ンタが前に出るのか。シーズンの得点を競っているベジとタカヒラですら譲っているというのに。結局じゃんけんの結果順当にカイトがキッカーとなり、**カイトが難なく決め、山東先制**。前半は山東 CB とボランチが相手 FW をうまく挟み込んで相手の攻撃をうまく封じたとも言えるし、全体として力はあるのだがいま一つ乗り切れていないここまでの山商に助けられ、前半 1 対 0 で折り返す。

後半も前半同様、山東が良かったというより、故障者も多く乗り切れていない山商に助けられた。**山東は CK から加点し、結局 2 - 0 で山東の勝利**。2 点とも流れの中からのものではなかったですが、流れの中でも決定機を山東は作っており<sup>8</sup>、逆に山商には作らせておらず、内容から言ってこの日の試合は山東の勝利が順当だったと思います。ちなみに 2 点目を取ったのは、**メンタルが強いという名の凶々しさを持ち合わせたカンタ**。あの凶々しさは一つの才能ですね。また、そのカンタ、自分のファールに対するホイッスル後にボールを蹴り、この日も余計な警告をもらい、途中交代。Y1 第 4 節にして、3 枚目の警告をもらい、次節累積による出場停止が決定。確かにそれまでの 2 枚のうち 1 枚は判定が厳しく感じられたが、この日の警告はバカ丸出し。本人はゴチャゴチャ言っていました、ホイッスル後に足でボールを触ってはいけないことは初歩中の初歩であり、軽くでも触って FK ポイントよりもボールを遠ざけると遅延行為とみなされかねない。**自分のフレーの重み、自分のポジションの重みを全く考えないこのイエローカード・コレクターの行動**に、監督の頭の中は煮えたり脳みそがとろけそう。とにかく、得点し警告をもらおうというカンタ劇場に付き合わされた一日となりました。とはいえ、カンタの代わり<sup>9</sup>に出場した **3 年アオキが左 SB で素晴らしい出足からボール奪取を連発したことは、山東にとって朗報**でした<sup>10</sup>。カンタ、さようなら。

ということで、羽黒に逆転された第 3 節、何とか勝ち点 3 をゲットできた第 4 節<sup>11</sup>、応援ありがとうございました。今週末は、地区総体になります。**山東は前年のリーグ戦の成績により県総体の第 7 シードを決めている（すでに出場権がある）ので、フライドのみをかけた戦いとなります**。ただ、勝ち癖をつける意味でも、重要ですよね。応援よろしくお願ひします。

**5 月 13 日（土）村山地区 地区総体決勝トーナメント 1 回戦 VS 山形城北 11:15~@ 山形市スポーツセンター南**

**勝つと 14 日（日）準決勝 VS 日大山形 9:30~@ 同上、また勝つと決勝 13:00~@ 同上**

<sup>8</sup> あれを決めないのはヤバイよ、と言っておきます、フトシくん。

<sup>9</sup> 1 枚警告をもらおうと、もう 1 枚は退場なので次厳しく行きづらくなります。CB は相手 FW に厳しく行ってなんぼのポジションである故、CB が警告をもらおうと十分な働きができなくなることを意味します。

<sup>10</sup> 部報前号で日大戦をレポートしましたが、この観点（交代選手の活躍）で言うと、**最後に 3 年ザキヤマの放ったヘディングシュートは惜しかった**。シュート自体惜しかったのもあるし、なかなか出場機会のない選手が千載一遇のチャンスをつかみかけたシーンであり、東陽の里で交代出場直後救急搬送された過去を持つ「**悲運の男**」ザキヤマを知る保護者席はさぞ沸いたことだろう、と推察しました。

<sup>11</sup> この試合勝てたのは、もちろん選手が頑張ったからでもあります、顧問の志村先生が今年 3 月台湾の故宮博物館から勝ってきた玉を身に付けてきて下さったことによる**玉パワーのおかげ**でもあるかもしれません（読みは、タマではなくギョク）。実は、敗戦の折にも付けてきていたのですが、「負けた時に玉つけてなかったら『そのせいで負けた』って玉のせいにするから、絶対付け続けてよ」と今野が厳命して付けてもらっています。今年のラッキーアイテムになるでしょう。

# 保護者会激励会 賑やかに挙行さる

4月30日(日)山形東高校のPTA総会等の後に、保護者会主催の総体激励会並びに新入生歓迎会がメトロポリタン山形で開かれました。前日羽黒戦があったので、勝っていればもっと気分良く飲めたのですが、敗戦を噛みしめる飲み会も、謙虚でまた良し。最近恒例になりつつある選手・来賓の入場から会は始まる。**照れ隠しの?早口ながら教養の深さと話の巧さをいつも通り発揮される佐藤保護者会長のスピーチ**、不肖にも例年の通りてっぺんを目指すとぶち上げる今野の話の後は、**川野副会長による乾杯**。宴会進行中、来賓の**清野後援会名誉会長、岸会長、芹川トレーナー、齋藤 GK コーチ**から話を頂戴する。清野名誉会長からは昨年からのチームの成長を喜ぶ笑顔(まさに孫の成長を喜ぶ好々爺の顔)が見受けられ、勝利への食欲さを求める厳しい話、そして険しい口調が例年のことなので、とても意外に感じられる(もちろん厳しい話は後半部にあった)。岸会長からは、羽黒戦の戦いは可能性を感じさせられたものの厳しいプレッシャーの中で同じようにプレーできるかどうかを鍵でその点まだ物足りないと御指摘を頂く。

その後は、恒例の1年生の芸。今年は一発芸的なものではなく、長い構成のコントが目立つ。内容は完全に忘れてましたが、ぶっつけ本番的なコントはとても笑った。特に、話の本筋とは全く違った観点だが、**タケちゃんこと本間の鼻が心の動揺と共にフクッと膨れるのが、個人的にはとても面白かった**。また、**オサことオサイリス**らの文字通り体を張った漫才もまます。ただやはり、**漫才は2年生に敵わない**。というか、**2年生は出なくてもいいのに・・・出たいんでしょね**。漫才師タカヒラとミヤガワの安定した漫才には、会場大受け。2年生が高いハードルを作ってしまったので、1年生は大変だね。

最後は、**川野副会長と、2年マネレノ保護者の秋葉さん**によるエールで締め。2次会も楽しく参加させて頂き、選手ともども活力を頂戴しました。保護者の皆さま、ありがとうございました。

## 新コーチ 高橋さん就任

今年から新たに、コーチとして高橋コーチが山東サッカー部選手を指導して下さることになりました。高橋コーチは山東46回卒<sup>12</sup>で、私の3つ後輩になります。私とは高校入れ替わりなのですが、私もOBとして遠征に帯同したりしてよく現役生と関わっていたので、前から知っていた方でした。筑波大学卒業後、山形で警察官となり、OSAフォルトナのGKコーチを務め、また勤務が米沢になった折には、米沢四中のコーチを務めました。昨年?米沢四中を県中総体で準優勝に導くなどの実績もおありです<sup>13</sup>。

このたび、お仕事の関係で地元の山形に戻られたのを機に、手伝ってもらえないかとオ

<sup>12</sup> 志村先生と同期!

<sup>13</sup> 一昨年は、県中総体の前に、河川敷で山東とも練習試合をしています。

ファーを出し、快諾して頂きました。すでに公式戦ばかりか、練習に来て下さったりもして頂いております。

高橋コーチ コメント

このたび山東サッカー部のコーチになりました高橋です。母校のコーチになることができ、光栄です。いつも来られるわけではありませんが、よろしくお願ひします。

皆さま、よろしくお願ひ致します。